

「情報科学実験Ⅱ」の進め方について

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、原則として在宅で実施することになります。「情報科学実験Ⅲ」は対面授業が必須なので、その実施にあたって密状態を回避するように、当初「情報科学実験Ⅱ」で使うはずだった教室を明け渡す必要があったということも、在宅とせざるを得ない理由のひとつです。

また前期の状況から、例年と同じ構成の実験は不可能であると判断し、今年度の実験構成を例年とは大きく変えています。研究室等の先輩からアドバイスをもらったり、友達同士で相談しながら実施することは全く問題ありませんが、以前の実験構成と変わっていますので、先輩のアドバイスがそのまま活かせるとは限りませんし、昨年度以前のソースコードでは今年度の内容に合わない部分が多々出てくることと思います。このことを事前に理解した上で、実験を進めてください。

「情報科学実験Ⅱ」に関する資料はすべて、学部ファイルサーバ上の授業資料置き場、
¥¥fs¥share¥class¥2020 情報科学実験Ⅱ
に置きます。適宜参照してください。

実験課題は全部で 14 あります。指導書の 1 章が実験 1 課題にあたります（ただし、第 0 章はプログラムの説明なので、実験課題ではありません）。14 の課題は 2 つに分かれており、第Ⅰ部が 7 課題、第Ⅱ部が 7 課題です。第Ⅰ部を完了することが、単位取得の絶対条件です。第Ⅱ部をどこまで完了したかによって成績が変わってきます。成績基準については、指導書を読んでください。

各章の実験課題を終えたら、教員あるいは TA による課題チェックを受けてください。課題チェックでは、皆さんの作ったプログラムを実行してもらって、期待（仕様）通りの動作をしているかどうかを確認します。

2020 年度の課題チェックのやり方として、時間割通りの時間に（つまり、月・金の午後）次の 2 通りを用意します。どちらか都合のよい方でチェックを受けてください。課題チェックだけでなく、質問のために使っても構いません。

- 対面チェック： あらかじめ担当者に希望来校時間をメールして、まず時間調整をしてください。このとき、日を指定するなら、1 時間程度の間隔を空けて 3 つくらい提示してください（担当者は、はずせない会議等に参加しなければならないこともあるので、選択肢を示さないと、「じゃあ、来週ね」になってしまうこともあります）。時間調整の結果、確定した時間に、指定された場所に来て対面でチェックを受けたり、質問してください（マスクの着用必須です）。

- オンラインチェック： MS Teams に、この授業用のチームを作ります。ここは皆さんが自由に利用して結構です。時間割通りの時間に、担当者がこのチームに参加します。あなたの好きな時間にアクセスしてオンラインでチェックを受けたり、質問したりしてください。具体的なアクセスの方法は、学部ファイルサーバ上の授業資料置き場に、別資料として置いておきます。

2月5日(金)が課題チェックの最終日です。これ以降、課題チェックは実施しません(保健センターから要請のあった、要支援学生は除きます)。

例年、学期末にはチェック待ちの長い行列ができます。それはすなわち、自分の順番がなかなか回ってこないことを意味します。これは、学期の前半にさぼって、後半で巻き返そうと思っても、巻き返せないことを意味します。自分で時間を管理して、計画的に進めてください。14 課題を 15 週でこなすには、N 章の課題チェックを第 N+1 週に受けて合格する。これが標準ペースです。N 章の課題チェックを 2N 週に受けて合格するペースが、単位取得のための「最も遅い」ペースです。それより遅れると単位取得が危ぶまれます。

なお、誰がどの実験まで完了したかを示す、課題進行状況表を公開します。これを共有する目的は2つあります。

- 受講生向け： 自分がうまくできずに悩んでいるところについて、誰に聞けばいいかわかるようにすること。
- チェック担当者向け： 共有ファイルを置くことで、情報の一元化を実現すること。そして、例年の進行状況より遅れている場合に、皆さんに「はっば」をかけること。

具体的な URL は、やはり、学部ファイルサーバ上の授業資料置き場に、別資料として置いておきます。

担当者：

太田 剛 (ohta@inf.shizuoka.ac.jp)

増澤智昭 (masuzawa.tomoaki@shizuoka.ac.jp)